

トビタテ留学 JAPAN 10月レポート

岩手大学教育学部4年 千葉さりな

今月からインターシップが始まりました。一つ目の学校は日本語と英語のバイリンガル教育を行っている Huntingdale Primary School です。まず初日に学校を訪問して驚いたことは、ほとんどの児童が日本語で学習したり会話ができることです。もちろん、両親が日本人ではない児童がたくさんいます。それでも、日本語で行われる算数や理科、日本語の授業ではきちんと日本語を使って授業に取り組んでいました。この学校では、日本人の教員とネイティブの教員が約半数ずつ在籍していて、日本人の教員は、教員同士との会話以外すべて日本語を使っています。児童とも日本語で会話し、英語で話しかけてくる児童にはその英語を日本語に訳して、児童にリピートさせます。そして、日本語で返答をします。日本語がまだ定着していない児童には他の児童が英語で通訳を行い、さらに日本語での言い方を教えてくれています。

私は日本語の授業アシスタントとして全ての学年の授業に参加しました。私も先生方と同じように英語を聞いて、日本語での言い方を教えていますが、一つ



の会話に時間がかかります。児童はたくさんいるのでテンポよくサポートし、かつ粘り強く伝える必要があります。毎日たくさんの労力を必要とします。しかし、児童の日本語力を徐々に上達させるためには教員の粘り強い教え方が重要だと感じました。



また、ICT の授業では、全学年がコンピュータ操作の授業を行っています。各教室に 1 台電子黒板があり、各学年には 1 クラス分のタブレットが用意されています。教科の授

業で ICT を使って授業を行うのは 3 年生からですが、キーボードの使い方や文字の装飾の仕方など、授業でスムーズに ICT を操作できるように低学年からコンピュータ操作の授業が行われます。そのため、3 年生の国語の授業では、児童がパソコンやタブレットの使い方を認知しているので、教員が操作の面で指導することはほとんどありません。成績評価や宿題もコンピュータを使うことが多くあり、学級通信のような保護者が児童の授業の様子を見るのもインターネットを用いています。

さらに教員にも政府からパソコンが支給されており、ほとんどの業務を各自のパソコンで行います。すべての教員は夜遅くまで学校に残らず、自宅に持ち帰って仕事を行っているそうです。家庭を持っている教員がほとんどなので、先生方は、自宅で自分の空き時間に仕事ができるのはとても便利だとおっしゃっていました。

さらにもう一つ驚いたことがあります。10 月 25 日 World Teachers day は世界共通のようですが、日本では普段と変わらない 1 日を送るはずですが、オーストラリアの学校では教員が校長先生から表彰される日で、先生方に賞状とお菓子を配っていました。また、校長先生の日にも先生方でお菓子などを持ち

寄ってお祝いするようです。

私はこのインターンシップを通して、オーストラリアの小学校では日本の小学校にはない教員のブレイクタイム（休憩時間）があったり、好きな時間に仕事ができたりと、ワークライフバランスが保たれていると感じています。さらに ICT やバイリンガル教育の面においても学ぶべきところがたくさんあり、新鮮な毎日を送っています。